小中学校の空調設備の暖房使用について(案)

1 方針

小中学校における冬期の教室での寒さ対策として、平成28年度の冬期から、空間設備の暖房使用を行うこととする。

2 暖房使用を行う理由

(1)空調設備の整備完了

平成28年8月に、全小中学校の普通教室で空調設備の整備が完了したこと。

- ◎ 小学校121校・離島中学校3校 H27.8月末までに完了
- ◎ 中学校53校 H28.8.28までに完了

(2) 教室の温度調査の結果

平成26年度及び27年度に実施した教室の温度調査の結果において、学校環境衛生 基準で定める10℃を下回る日や、その時間が継続した日があったこと。

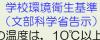
(全市平均)	H26年度	H27年度
10℃未満が測定された日	3.1⊟	9.6日
午前中10℃未満が継続した日	0.3日	2.0日

(3) 気象状況の変化

近年の異常気象で、冬には厳しい寒さの日があり、今年1月のような記録的な寒波が発生する可能性もあること。

(4)機器の有効活用

既設の空調設備に暖房機能が付いており、これを運転することで教室の暖房が容易に実現でき、機器の有効活用ができること。



「教室の温度は,10℃以上,30℃ 以下であることが望ましい。」



冬期の教室での寒さについては、衣服による調整で対応してきたが、教室の温度が 10℃未満となるような厳しい寒さの日には、児童生徒の健康維持のためにも、空調 設備の暖房使用を行うことが適当である。

児童生徒が健康で学習 しやすい環境の実現!

- ★教育環境の満足度アップ!
- ★福岡市の住みやすさ評価!

生活の質の向上!

3 冷房専用機設置校への対応



- ② 空港周辺の航空機騒音や、幹線道路沿いの交通騒音などにより、教室の窓を常時開けられない学校については、従前から、夏期における教育環境を維持する目的で空調設備を整備してきた。(計43校)
- ◎ そのうちの18校は、空間設備を整備した時期の状況から、冷房専用機となっている。
- ◎ これらの冷房専用の空調設備は、機器の更新時期を迎えていることから、予算を確保して、 平成29年度に暖房機能付きの空調設備へ更新したい。

航空機騒音対策校 (12校)交通騒音対策校 (6校)東吉塚小・筥松小・月隈小・
席田小・吉塚小・板付小・
箱崎小・那珂南小・馬出小小学校千早小・愛宕小
福岡中・箱崎清松中・
春吉中・千代中中学校吉塚中・席田中・箱崎中

4 暖房の運用指針

★ 気象状況や個別の事情に応じて、児童生徒の健康維持に配慮しながら、学校長の判断で 運転を行うことができるが、省エネ対策などにも留意して、以下を目安とする。

	冬期の暖房	(参考) 夏期の冷房
期間	12月~2月 (山間部は12月~3月)	7月~9月
条件	教室内の温度が 10℃を下回ったとき	教室内の温度が28℃を超え, かつ湿度が相当に高いとき
設定温度	18℃	28°C

H28.8.29 市長がエアコン整備が完了した城西中(城南区)を訪問



